ISSN 2189-7360

# Rio リオ

豊田市矢作川研究所 季刊誌

No.229
秋
2023

アメリカザリガニとアカミミガメは外来種って知ってた？ ……2
外来生物防除を通じて「未来につながる」活動をめざして ……4

矢作川の生き物 ……6
矢作川の風景 ……6
2023年夏 矢作川学校報告 ……7
矢作川研究所日記 ……8

# アメリカザリガニとアカミミガメは外来種って知ってた？

山本大輔

## 外来種は人気者？

ある小学校の授業で川の学習をした時に、どんな生き物が子どもたちの印象に残るのか気になり、その川にいる生き物から1，2，3位を選んでもらうアンケート調査を行ったことがあります。私が魚類好きなこともあり、「子どもたちも川の生き物といえば魚類を選んでくるでしょ」と安直に予想していました。しかし、アンケートの結果、最も多く選ばれたのはアメリカザリガニで、選んだ理由には、でかい、かっこいいなどの記述がありました。

私の仕事柄、「選ばれたのが外来種か」と残念に思った一方で、自分自身も子どもの頃にはアメリカザリガニが身近な生き物であり、大きくて、真っ赤なアメリカザリガニを捕まえることに喜びを感じていたことを思い出しました。

この記事では、多くの人にとって身近なアメリカザリガニとアカミミガメの規制が始まったことや特定外来生物について紹介します。また、次の記事としてアメリカザリガニの防除を行った企業内ボランティア団体の活動について掲載します。

アメリカザリガニ

アカミミガメ

## 豊田市のザリガニはアメリカザリガニ

ニホンザリガニ（北海道で撮影）

「大きくて赤色なのがアメリカザリガニで、小さくて茶色なのはニホンザリガニでしょ」って聞いたことありませんか？私も子どもの頃に誰かにそう教わりました。100％間違っているとも言い切れないのですが、豊田市のザリガニがどちらの種類か迷う必要はありません。ニホンザリガニの主な生息地は北海道と東北地方であり、このあたりにはいないのです。

## どうする？アメリカザリガニとアカミミガメ

豊田市内で確認されていた外来生物のうち、2023年6月1日からアメリカザリガニとアカミミガメが条件付特定外来生物に指定されました。この指定により、他の特定外来生物と同様に販売・購入、野外への放出などが規制されるようになりました。しかし、アメリカザリガニとアカミミガメに限っては、すでに飼っている場合や新たに捕まえて飼う場合は、これまで通り手続き無しで飼うことができます。ただし、飼っていたものを放出する（どこかに逃がす）ことはできません。
そのため、家庭や学校等で飼っている場合は、飼い続けることができるので安心してください。脱走しないような飼育環境になっているかの確認を忘れないようにしましょう。なお、川遊び等で特定外来生物を捕まえてしまった場合ですが、その場ですぐに放すことは規制の対象になっていません。

## 新たな外来種による被害を生まないために

外来生物法の施行（2005年）、COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）の名古屋開催（2010年）、そしてテレビ番組やSNSでの外来種報道等を受け、近年では生物多様性保全や外来種対策に関する意識が高まっています。環境イベントでの魚類の放流や、お祭りでの生き物を景品にしたゲームなど、当たり前に行われてきたものも形を変えてきています。

広大な自然の中で増えてしまった外来種を減らすことは困難です。アカミミガメやアメリカザリガニに限らず、ペットとして迎え入れた生き物を愛情と責任を持って最後まで飼うことが、新たな外来種による問題発生を防ぐことにつながるでしょう。

ペットの終生飼養を啓発する展示（豊田市動物愛護センター）
※展示は終了しました。

そして、在来種とよく似たものなど、まだ私たちが認識できていない外来種がいるかもしれません。知らないものを把握することは難しいですが、昔から住んでいる人に「このあたりにはどんな動植物がいるのか」を聞いたり、いまの自然の姿を調べたり、そうした情報を記録して後世に残したりすることが、身近な自然を守るうえで大切なことだと思います。

## 豊田市の事例が全国に

環境省のアカミミガメ対策推進プロジェクトでまとめられた様々な知見には、矢作川研究所が事務局となった豊田市での活動成果も含まれています。地域活動としての外来種防除について、逢妻女川・逢妻男川沿いの自治区や団体、近隣の企業、学識者、市役所が一体となって検討した成果が、アカミミガメの条件付特定外来生物への指定につながったと思うと、当時の担当者として感慨深く、関わってくれた皆さんに改めて感謝しています。

（やまもと　だいすけ、研究員）

参考文献
吉橋・山本（2023）川の生物に対する児童の捕獲体験と関心との関わりについて－豊田市の岩本川での事例報告－. 矢作川研究, 27:33-41.

# 外来生物防除を通じて「未来につながる」活動をめざして

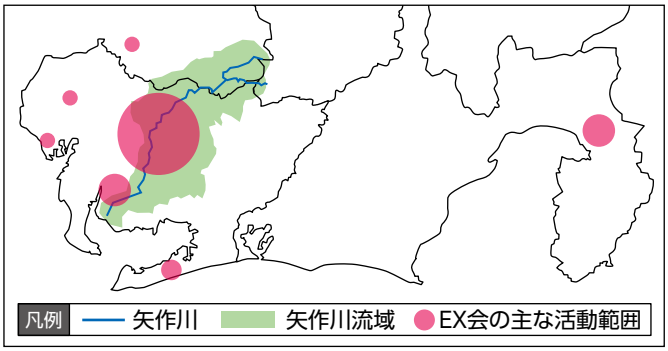
## ～アメリカザリガニ防除活動～

立和田　誠

トヨタ自動車の社内に数あるインフォーマル団体の一つであるEX会は、会の基本方針の一つに『会員一人ひとりが、自ら地域・国際社会に貢献する』とあり、いつも支えてくださっている各工場周辺地域の皆さまに少しでも恩返しをできるよう、またSDGs達成に寄与できるよう、地域貢献活動を展開しております。活動の中で地域の方々や会員同士のふれあいや、活動の趣旨・体験を通して様々な気づきや学びを得ることで、自らも魅力あふれる人材になることを目指して活動をしています。

### どんな場所で活動をしているの？

EX会の活動は、トヨタ自動車の各事業所を拠点としています（右図）。工場周辺地域の清掃活動や福祉施設・区民会館を通じた活動など多岐に渡ります。また多くの拠点が矢作川流域にあり、各ボランティア団体様と連携させていただきながら、河川の除草、森林や竹林の伐採、アカミミガメの防除活動など行っています。




EX会の主な活動範囲

### どんな活動をしているの？

#### 森林伐採ボランティア活動

山の多い地域では、人工林と呼ばれる人が植えた林が多く、その林の木が時代と共に間伐されることがなくなり、土砂災害などの一因となっています。それらを防ぎ、豊かな自然を未来につなげていくことを目的とした森林間伐のボランティア活動を行っています。

豊田市藤岡地区での人工林間伐

#### 海岸清掃ボランティア活動

沼津市にある千本浜海岸の清掃を実施しています。海の生態系を保護する一助としながら、海洋ごみ問題を知り、自分たちができることを考え、行動するきっかけとすることを目的にボランティア活動を行っています。

静岡県沼津市千本浜海岸の清掃

## アメリカザリガニの防除

EX会として、各拠点の役員と共にSDGsについて学びながら、地域貢献ができないかと考えていた折に、6月1日よりアカミミガメ・アメリカザリガニが「条件付特定外来生物」に指定されたことをうけ、身近な生物が及ぼす影響に関心を持ってほしいと強く思い、矢作川研究所、水辺愛護会にご指導、ご協力をいただき、初音川ビオトープでの防除に取り組みました。

準備の段階から、会員間でふれあえるツールとしてSNSを活用し、アメリカザリガニの生態や捕獲方法などの共有を図れたことが、捕獲数333匹という結果に繋がったかと思います。また、捕獲後には処理方法、外来生物防除の必要性、野外に放出することで負う処罰について説明し、生き物を飼育することの責任についても理解してもらいました。

アメリカザリガニ釣りの様子。釣竿は自宅にあるもので手作りしたものを使用しています。

アメリカザリガニの観察の様子。7月23、30日で合計333匹を防除することができました。

外来生物の処理を体験する様子。捕獲後の処理は「自分たちにできること」として、熱湯で加熱後に処分する方法を選択（火気厳禁のため、IH機器で実施）。

7月23日　防除数　163匹

7月30日　防除数　170匹

## 活動後の様子について

大人も子どもも夢中になり釣りをする姿、釣れたザリガニを見た子どもたちのあふれる笑顔や人と人との会話などが生まれ、「大人も子どもも楽しく防除を学べた」などの声もあり、やってよかったと思える活動となりました。後日、会員の方より「地域の池で防除を実施しました」との連絡もあり、外来生物防除に対する関心は着実に広げることができたようです。

## これからの取り組みは？

活動を進めていく中で、外来生物の防除について学び、生物多様性の保全について考えることで、自然環境全体への関心を高めることができました。多くの防除現場では数回の活動では成果は得られないため、継続的に防除に取り組む必要がありますが、自分たちだけで継続することは容易ではないことも実感しました。だからこそ、普及啓発を続けることが重要であり、EX会としても普及啓発の輪を拡げ、『会員一人ひとりが自ら地域・国際社会に貢献』、すなわち自ら防除活動に関心を持ち、地域の方々や会員同士でふれあいながら、仲間と共に「未来につなげる」活動を継続していくことが、魅力ある人材への成長にも繋がると考えております。

（たちわだ　まこと、トヨタ自動車（株）EX会）

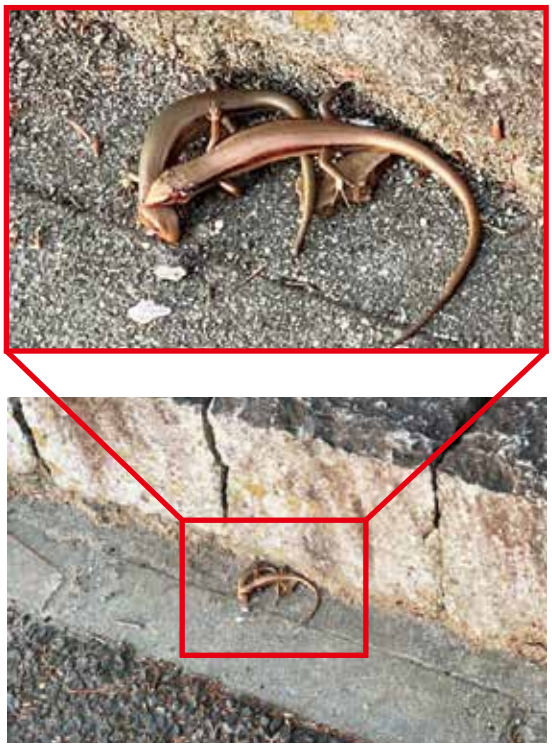
矢作川の生き物

# ヒガシニホントカゲ

2023年4月11日、豊田市立挙母小学校の近くを歩いているときに見つけました。石垣の近くで動かないトカゲが2個体。よく見ると片方が噛んでいるようです。微動だにしないので、お互いに噛み合って相打ちとなり死んでしまったのかと思っていました。近づくと、尾が少し動いたので、驚きつつもスマホで急いで撮影しました。

鱗の感じからニホントカゲの仲間のようですが、図鑑を調べると分布域的にヒガシニホントカゲのようです(2012年に近畿以東のニホントカゲがヒガシニホントカゲとして記載されました)。少し近づいても噛んだままの状態で「かなり執拗に噛んでいるなぁ」と思いましたが、その理由はなぜでしょうか。別の少し昔の図鑑で、ニホントカゲが噛んでいる写真があり、繁殖期の雄同士のテリトリー争いと解説されていました。一方、別のページには、交尾の際に雄が雌の首をくわえる写真も掲載されていて、今回の写真がどちらに該当するか判断に迷うところです。ただ、繁殖期の「雄ののどには赤い婚姻色が現れる」とあり、今回の写真では噛まれている方の個体ののどが赤く雄と考えられるため、雄同士の争いのようです。

繁殖期は4月中旬～5月中旬頃とあり、今回の写真を撮影した時期とも一致します。繁殖期はもう少し続くようなので、今回と同じような光景に出くわすかもしれません。テリトリー争いに一生懸命なので、じっくり観察できるチャンスです。散歩などの際に、足元を注意深く見るのも良いかもしれません。　(小野田幸生)



## 矢作川の風景「秋の河畔林－平成記念橋上流を望む」

写真左上に矢作川で最も新しい平戸大橋(2019年建造)が架かっており、そこから川は大きく蛇行した後、真っ直ぐに流れる矢作川が現れます。写真の左側(右岸側)には上流から越戸公園、お釣土場、荒井公園が連なり、左岸側には百々貯木場、平井公園があります。両岸にウォーキングコースが設けられており、多くの方々が散策を楽しんでいます。　(白金晶子)

2022年11月28日 撮影

# 2023年夏 矢作川学校報告

矢作川学校はコミュニティや子ども会などが主催する川遊びや環境学習に講師を派遣する活動です。この夏に開催された矢作川学校を紹介します。

## 猿投台地区コミュニティ会議レク・スポーツ部会による「飯野川で遊ぼう」が行われました。

2023年7月23日

内田研究員のほか、調査協力者の山口健一氏、間野(あいの)静雄氏が講師として参加し、水生生物の採集方法を指導しました。みんなで採れた生物を持ち寄り、水槽に入れてミニ水族館を作り、鑑賞しました。アブラハヤ、オイカワ、カワムツ、アカザなどの魚が捕れましたが、数日前に増水があったとのことで、個体数は少なめでした。今年の6月から特定外来生物の指定を受けたアメリカザリガニも捕れ、外来生物との関わり方についてみんなで考えました。

## 籠川の支流の広沢川で「広沢川川遊び」が行われました。

2023年7月30日

当日は絶好の川遊び日和で、地元の親子連れの方などが魚とりを楽しみました。カワムツ、カワヨシノボリ、ホトケドジョウの3種の魚のほか、ヤゴやエビなども採集されました。多数の魚などがとれたことで、地元の川が自然豊かな川であると認識を新たにしている方もいました。

個人的にはその日一番大きなカワムツを捕ったお子さんがとても誇らしげに皆に見せていたのが印象的でした。

講師：山本大輔研究員・宮田昌和所長

## 永覚みどりの会&子ども会による「大排水路の水生生物調査」が行われました。

2023年7月30日

夏空の下、農業用排水路で水生生物調査をしました。研究所から内田研究員と宇地原永吉氏が講師として参加しました。コロナ禍で調査できない年が続き、久々となった会を楽しみました。

【参加者の声】

- とにかくエビがたくさん採れて、子供たちの感想もエビだらけだった。
- カメを踏んでしまい、カメに怒られた子がいた。
- 採り方を教えてもらえてうれしかった。

# 矢作川研究所日記

## 矢作川の魚たちがパネルになりました！

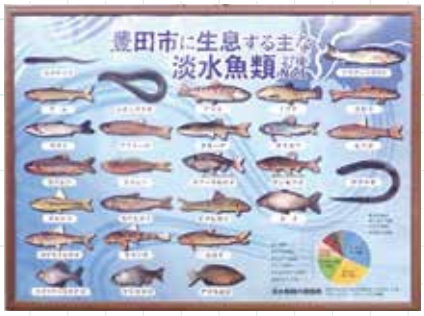
2023年8月17日

2003年から当研究所の所長を務めてくださった、梅村錞二（じゅんじ）先生から豊田市淡水魚類調査会で制作されたパネル「豊田市に生息する主な淡水魚類」を寄贈いただきました。パネルはB1サイズで約70 cm×100 cm縦横、2枚一組で、豊田市の主な魚類53種の写真が掲載されています。

梅村先生は矢作川中流域、支流犬伏川との合流付近に構えられたご自宅で、川とともにはや91年暮らされています。矢作川の水生生物のことを知りたいのなら、最初に名前が挙がる魚類研究者で矢作川の生き字引ともいえます。先生は、これまでに「愛知県の淡水魚」「川とともに生きる」「豊田の淡水魚類相」の3冊の書籍を出版されています。今回は迫力のあるパネルで豊田市の魚類を紹介されました。パネルを制作されようと思われた経緯を先生にお伺いすると、「パネルを作ったのは、豊田市の文化、歴史、環境の底上げに一役担えればと思ったから。草刈りなどの環境美化も大切だが、自然環境を良くしたい、守りたいと思う根本は、そこに生息している野生生物の暮らしを考えることに繋がる。矢作川の環境も刻々と変化していくから、いつ、どこに、どの種類が生息していたのかを記録しておくことが重要だと思っている」と語られました。ご来所時には、横にこれまで実施された調査の報告書を携えられていました。

寄贈いただいた2枚のパネルは即刻、矢作川研究所の会議室の壁に鎮座しました。パネルの前に立つと53種類の魚のフォルムと名前が一目瞭然です。インターネットの環境があれば、多くの情報を瞬時に得られる時代ですが、このパネルにはネットや書籍とは違った良さがあると感じます。パネルの魚たちは動きこそしませんが、種毎のフォルムを知らない間に教えてくれるようです。私も長年、矢作川学校の依頼を受け、豊田市の多くの市民団体とともに矢作川やその支流の観察会に参加してきました。パネルにある53種の魚類のうち、自らの手で捕獲できたのは、40種に留まります。パネルを眺めていると、よっしゃ、次にアユカケを捕ってやるぞという張り合いも生まれてきました。

パネルは猿投台地域の交流館・公民館や豊田市の全中学校などに寄贈されました。家族揃ってパネルの魚たちを眺め、それぞれの魚たちの暮らしを通して彼らの生息場である川の岸辺、瀬や淵の岩陰、川底の砂礫に思い馳せることでしょう。魚を巡る家族の武勇伝を聴いているおチビちゃんたち、パネルを囲う家族の姿が浮かびます。



さて、皆さん、このパネルの魚類で、矢作川でゲットした経験のある魚は何種類ですか?

（内田朝子）

表紙のキノコ：マントカラカサダケ *Macrolepiota detersa*
昨年の10月、国附町の矢作川河畔でみつけました。カサまでの丈は、なんと約40 cmの大きなキノコでした。

**Rio 編集後記**

今年の夏は、自分の人生で一番暑いと感じました。毎年のように異常気象の言葉を耳にしますが、「異常気象がもはや通常になる」と、ある気象専門家が語っていました。この夏、皆さんはどのような暑さ対策をされましたか？来年の夏に備え、閃めき！エコな暑さ対策！を共有しておくといいですね。（内田）

Toyota Yahagi River Institute
豊田市矢作川研究所　http://yahagigawa.jp/　yahagi@yahagigawa.jp
〒471-0025　愛知県豊田市西町2-19　豊田市職員会館1階　TEL.0565-34-6860　FAX.0565-34-6028